韓国語の人称研究から見る日本語
—省略，「不完全な文」の対照研究を視野に—

新井保裕
文京学院大学

1．はじめに

言語には普遍性と多様性があり，ある文法カテゴリーが様々な言語に共通して現れても，その現れ方は言語により異なる．例えば，人称(person)は人称代名詞(personal pronoun)に現れることが最も多いが、言語によっては別の部分でも表示される．ドイツ語やフランス語では，主語の人称に応じて動詞の形態が異なる．そのため，主語が省略されても動詞の形態から、主語の人称がわかることもある．省略や「不完全な文」を支える文構造、談話構造，言語知識に人称が大きく関わっていると言える[1)]．

一方，韓国語の場合は，人称代名詞以外では人称は現れないと考えられることが一般的である．しかし목정수(2014)では人称の概念を拡大適用し，代名詞だけでなく，敬語やモダリティ表現，否定表現についても取り扱い，韓国語の人称について総合的な分析考察をしている．代名詞による人称は随意的なものであり、語尾(ending)による人称が必須のものであると捉えている．韓国語では主語を始めとする項(argument)が省略されることが多いが，語尾によって表される人称が，韓国語の省略や「不完全な文」の生成に大きな役割を果たしていると推察される．

日本語は韓国語と同様にSOV語順構造を備えた膠着語であり，敬語が発達しており，言語類型論的に非常に類似していることで知られている．日本語においても人称という文法カテゴリーが扱われる際は人称代名詞に注目が集まることが多い．敬語やモダリティ表現との関係が注目されるときもあるが，それら表現に研究の主眼が置かれ，人称は間接的に論じられるのみとなる．韓国語と類似している日本語において，목정수(2014)の人称研究を手掛かりに新たな視点から人称を研究することも重要かつ有効ではないかと考えられる．一方で，日本語と韓国語が類似しているからといってもその言語構造が完全に同一であるわけではない．人称においても日本語と韓国語でその特徴が異なり得る．また日本語は韓国語以上に省略や「不完全な文」が

---

1) 本研究では，省略があってもコミュニケーションが成立するのは，対話者に，背後にある文構造，談話構造が明確に意識されているためであると考える．また「不完全な文」を，「母語話者が持つ言語知識から想定できる完全な文構造を基準にして，「必要な構成素」とされる何かを欠いているため，形態／統語的に不完全さがありながら，文として許容される形式」と捉えることにする．

多いことが指摘されており，両言語の背後にある言語構造が異なる可能性が示唆されている．人称が省略や「不完全な文」の生成に大きく関わることを考えると，日本語では，韓国語同様に，あるいはそれ以上に人称が大きな役割を果たしているのではないかと考えられる．

そこで本稿では，韓国語の人称研究を出発点に，日本語の人称の特徴について考える．そして日本語の人称の特徴が、省略や「不完全な文」の生成にどのように関わっているのかを明らかにしたい．

2．人称

本節では，人称とは何かについて概観し，日本語の研究において人称はどのように扱われてきたか，あるいはこなかったかを見る．そして日本語と類似した韓国語において，人称を取り上げた목정수(2014)の内容を概観し，日本語の人称研究への適用可能性を探る．

2．1．人称とは何か

人称とは，以下(1)，(2)で定義される通り，発話，対話における話し手，聞き手，第三者を区別して表わす文法カテゴリーであり，人称代名詞で表示されることが多い．

(1) 言語は，対話をその基本的な形とする．この対話は，一定の場面の中で，少なくとも 2 人の人間が相対して互いに自分の思うところを述べ合う伝達の形式である．その 2 人の人間は，互いに話し手となり聞き手となって対話は進行するのであるが，その場合，話す事柄に対する，話し手，聞き手および第三者の関連の相違を人称の相違といい，話し手に関することを 1 人称(first person)，聞き手に関することを 2 人称(second person)，そして第三者に関することを 3 人称(third person)という．

（亀井他編 1996: 1043）

(2) 発話行為に参加する話し手と聞き手，そしてそれ以外の第三者（人や事物）を，それぞれ区別する文法カテゴリー

（斎藤他編 2015: 175）

例えば，(3)に挙げる英語では，‘I’，‘you’，‘He’という代名詞がそれぞれ 1 人称，2 人称，3 人称を表している．ただし人称は代名詞以外の部分にも現れており，(1a)では‘love’，(1b)では‘loves’のように動詞が活用しており，動詞の形態にそれぞれ 1 人称，3 人称という人称が現れている[2]．英語は命令

---

2) ここでは議論の単純化のために数(number)という文法範疇については考えず，単数に

文や分詞構文などを除けば，一般的には主語省略のない言語であるが，仮に主語が省略されたとしても，動詞の形態を見れば，ある程度は主語の人称がわかると言える．

(3) a. I *love* you.
　　b. He *loves* you.

言語類型論の観点から各言語の人称を観察及び記述し，類型化したSiewierska(2004)では人称について次のように述べている．

(4) It is stated that the grammatical category of person covers the expression of the distinction between the speaker of an utterance, the addressee of that utterance and the party talked about that is neither the speaker nor the addressee. The speaker is said to be the first person, the addressee the second person and the party talked about the third person. This, however, is not quite correct. What is missing from the above characterization is the notion of participant or discourse role.
(Siewierska2004: 1)

Siewierska(2004)は人称の文法的機能だけでなく談話機能にも言及している．人称代名詞や動詞活用，接辞などの文法だけを人称として捉えるのではなく，人称形態の強調形・非強調形の区別など談話機能にも注目しており，人称研究の拡大が示されている．

2．2．日本語における人称研究

人称は人称代名詞に現れると考えられる日本語では，人称はどのように扱われてきたのだろうか．日本語において，人称代名詞以外の部分で人称を捉えようとした研究は非常に限定的であるが，古くより見られる．山田(1924)で敬語は人称（称格）と関連があることが指摘されていた．近世の日本語を扱った山崎(1963)でも人称代名詞と待遇表現助動詞との呼応関係が分析されるなど，敬語と人称の関係は研究の対象となってきた．菊地(1994=1997)でも敬語の〈人称変化／人称暗示〉機能が指摘されている．例えば，(5)は主語が表現されていないが，a，b それぞれの主語が「私は」，「あなたは」だと理解される（菊地 1994=1997: 100）．しかし近年は，ヴロダルチック・アンドレ(1997)でも指摘されるように，敬語と人称の関係に注目した研究は見

限定して論を進める．

られない[3].

(5) a. 来週のパーティーには出席いたします（まいります）.
　b. 出席なさいますね（いらっしゃいますね）。

（菊地 1994=1997: 100）

また他の言語現象に目を向けると，モダリティと人称の相関関係に注目した仁田(1991)などがあるが，あくまでもモダリティを主題に取り上げ，人称現象は付随的に論じているだけとなる．例えば，ある事柄についての解説や判断が成り立つことについての話し手の判定を述べ伝えた〈判定文〉の中には(6)のように 2 人称ガ格をとりにくい，といった人称制限の現象を示すものが存することが仁田(1991: 80-81)では述べられている．人称の分析に主眼が置かれたものではない．

(6) a. ｛僕／彼｝は学校へ行く．
　b. ｛僕／彼｝は学校へ行くだろう．
　c. *君は学校へ行く．
　d. *君は学校へ行くだろう．

（仁田 1991: 80-81）

野田(1991)は日本語文法分析の入門書であるが，大事だと思われるテーマの 1 つとして人称を取り上げている．人称を表すことば，命令文・平叙文・質問文，内面表現・外面表現，「あげる」「くれる」「もらう」，主語の省略をそれぞれ人称の観点から考えている．例えば，下記のような「あげる」「くれる」の使い分けを人称という点からどのように考えるかを問題として提示している．

(7) a. 僕は君にもカードをあげた／*くれたかな．
　b. 君は僕にもカードを*あげた／くれたよね。

（野田 1991: 174 を一部要約）

野田(1991)は，日本語文法のさまざまな現象を扱い，人称を総合的に捉えようとした数少ない研究であり，注目に値する．ただし日本語文法分析の入門書という性格であるため，事例の提示と簡単な分析に留まっている．

---

3) ヴロダルチック・アンドレ(1997: 72)では「19 世紀末から 20 世紀半ばまで、敬語は「人称」というカテゴリーとともに論じられていたが（とくに Chamberlain B.H., Aston W.G., Polivanov E.D., 山田孝雄、木枝増一），その後（日本では 1920 年代から欧米では 1945 年から）この視点は見られなくなった」という．

このように日本語の人称に焦点を当て総合的に分析考察しようとした研究は，管見の限り，皆無である．

２．３．韓国語における人称研究：목정수(2014)

韓国語においては，목정수(2014)が人称の総合的研究を試みている．人称の概念を拡大適用し，「発話行為に参与している話者と聴者が取り交わすメッセージの中に込められた事件参与者を直接指し示したり，間接的に暗示したりしている全ての言語的装置」(목정수 2014: 14, 筆者訳) を人称とした．命題(proposition)と文(sentence)を区別し，命題構成の項構造(argument structure)に現れる人称を行為者人称，命題を含んだ文構成で示される話者—聴者関係に現れる人称を話聴者人称として，共に人称として扱っている．西欧語では話者—聴者の情報が言語形式として現れないため (목정수 2014: 48)，人称は行為者人称のみが考えられることが多い[4]．一方で，韓国語は話聴者人称が待遇法に語末語尾として現れ，行為者人称が先語末語尾「-시-」や別の語末語尾，または具体的に代名詞人称に現れると述べている (목정수 2014: 49)．そして，行為者人称と話聴者人称が分離して現れることが，韓国語の最も特徴的な現象であることを指摘した．その具体例として以下の例文が挙げられている．

(8) 할머니, 그 동안 잘 계셨어?

(목정수 2014: 50)

(8)は話者が自身の祖母に対して行った発話である。行為者である祖母に対して，「있다」の尊敬形「계시다」を用いて【尊敬】の対象として待遇している一方で，聴者である祖母に対して非格式非丁寧形語尾해体 (パンマル体) の「-어?」を用いて【非丁寧】の対象として待遇している．韓国語は，行為者としての祖母を高めて待遇しつつ，話し相手としての祖母を親密に扱い高めずに待遇することが可能である (목정수 2014: 50)．

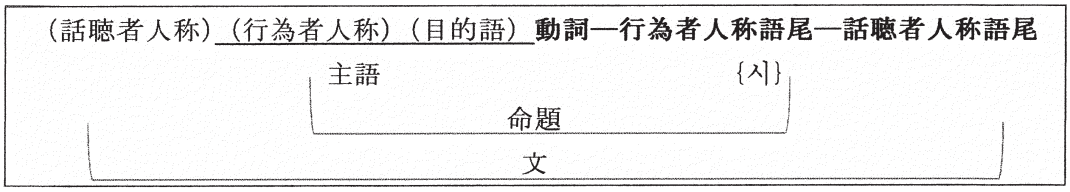

図 1 韓国語の人称構造 (목정수 2014: 50)

4) 韓国語の文構成で必須的な要素として関与する語末語尾／終結語尾が示す話者—聴者の関係が西欧語では言語形式として現れないために，こうした話聴者人称に関する部分は文を超えた領域として見られ，語用論で扱われるという (목정수 2014: 48)．

목정수(2014)はこうした議論を踏まえ，韓国語の人称構造を上記のようにモデル化し，「人称がよく現れない」とされる韓国語において，語尾を中心に，人称の問題を論議及び再考した．その際，人称を次のように屈折人称，動詞人称，代名詞人称と三段階に分けて，韓国語の人称範疇を論じている．以下ではその具体例を概観し，日本語への適用可能性を探る契機とする．

Ⅰ．一次段階の人称＝文法形態の屈折人称：誰と話しているのかによって機能分化が語尾形態と関連して成される
Ⅱ．二次段階の人称＝語彙形態の動詞人称：動詞が持つ語彙意味／事象構造／概念構造によって人称の制約が伴い，相互的に語尾との制約関係が後から伴う
Ⅲ．三次段階の人称＝語彙形態の代名詞人称：名詞の次元で行為者人称を具体的に命名

（목정수 2014: 109 を要約）

①屈折人称

목정수(2014)は，語尾が担当する話聴者人称，またここから取り出すことのできる行為者人称情報を，屈折語尾を通じた人称，すなわち屈折人称と命名し，その人称のデフォルト値(default)値について論議している[5]．狭義の人称研究では，英語例(3)でもわかるように，主語と述語内動詞活用など，異なる成分間に見られる一致(agreement)に注目するのが一般的であるが，목정수(2014)ではそれをより柔軟に捉え，デフォルト値を設定し分析している．「A→B」という規則よりも「A→B が多い」という傾向に注目していると言え，留意しなければならない．そのため，各人称表現を「X 人称」よりは「X 人称性（または X 人称的）」で捉えている．목정수(2014)では聴者待遇法語尾や，文の種類を決める文末語尾，モダリティ(modality)語尾を屈折人称として把握しようと試みている．

(9) 아이 우리 아기, 배고프지?

（목정수 2014: 170）

---

5) 韓国語は膠着語であり，その語尾も 1 つの形態素が 1 つの文法的機能を担う膠着語尾として捉えるのが一般的であるが，목정수(2014)は西洋語の屈折語の論議を発展させる形で，韓国語の人称を論じている．韓国語の語尾には人称性も備わることから屈折語尾と称している．この術語については議論の余地があるが，本稿は목정수(2014)の韓国語人称論議を通じて，日本語の人称を考察することが目的であるため，議論の便宜上，その術語名称に従う．

例えば，(9)で用いられる終結語尾「-지」について목정수(2014: 171)は次のように述べている．

(10) 「-지?」は「-니?」や「-어?」の直接性を一段階超えてメタ的な疑問形語尾として用いられる．聴者に直接ある事実の可否を尋ねるのではなく，事実可否について自身にすでに尋ねた結果，そこに対する判断として確実な答えを備えた状態だということを改めて聴者に尋ね返すことを含んでいる．従って「-지?」の最も基本的な人称は話者の話者自身についての自答の性格と，これについての聴者に投げる質問の性格が混合しているものだと言える．よってここには話者が話者自身に回答についてある確信を備えているということを話しているという点で 1 人称性が，話者が，聴者が直接回答をできる能力がなく自身のことばに直接対応できない心理的距離を維持していることを反映するという側面から 3 人称性が，そして疑問文の形式を備えているという点から 2 人称性が複合的に入っていると見ることができるだろう．

（목정수 2014: 171 を筆者が翻訳，及び下線追加）

終結語尾「-지」について人称の観点から分析し，情報についての話者の確信や聴者との距離の側面で様々な人称性が含まれていると解釈している．韓国語の終結語尾と対照され考えられるものとして，伝達態度のモダリティ（日本語記述文法研究会編 2003）を表す終助詞がある．終助詞「よ」「ね」は話聴者間の情報伝達時の態度を表すものであり，終結語尾「-지」と共通する．人称にも深く関わると推察される．

②動詞人称

屈折人称に続く二次段階の人称として動詞人称がある．목정수(2014)は，動詞はその意味クラス(semantic class)によって，統語的には「主語」，意味的には「行為主」と「経験主」に人称制限があることを示しており，動詞人称と称している．例えば，목정수(2014)の調査によると，心理形容詞「싫다」の場合，1 人称，2 人称ではほとんど主語が明示されないという[6]．つまり，心理形容詞「싫다」は 1-2 人称性を備えると言える．2 人称の場合は次のような例が挙げられている．日本語でも心理形容詞が 3 人称主語を指示するためには，「～がる」構成にするのが一般的であり，主語が明示されない場合は 1-2 人称を指すことが多い．こうした点も共通しており，日本語人称研

6) 韓国語の用言は動詞，形容詞に分けられることが一般的であるが，목정수(2014)は人称構造によって主観動詞，記述動詞，行為動詞に分類している．心理形容詞は，목정수(2014)で主観動詞と分類されるものである．

究への適用可能性が窺える.

(11) 싫다고 그러셨단 말이예요 / 싫으니? / 싫으세요? / 싫으시죠 / 싫으시겠지만 / 싫다고 했지요? / 싫어?

(목정수 2014: 245-246)

また목정수(2014)は,基礎的な意味を持つ行為動詞が語彙的に尊待のペアを持っていることを示し(例:자다 / 주무시다),そうしたペアの補充法(suppletion)動詞は人称性が明らかになることを指摘している。例えば,「자다」は人称制約がないが,尊待のペアである「주무시다」は非1人称性を備える.さらに【尊敬】を表す先語末語尾「-시-」を用いて,語彙的だけでなく文法的にも尊敬待遇することが可能である[7].語彙そして文法的手段によって待遇が行われることは日本語と共通している.すでに菊地(1994=1997)で敬語の〈人称変化/人称暗示〉機能が指摘されているが,日本語と韓国語を対照し異同を明らかにすることで,日本語人称の特徴が見えてくるのではないかと考える.

このように語彙形態である動詞人称は文法形態とも関連が深いものである.韓国語は補助動詞を通じても間接目的語の人称関係が表現される목정수(2014: 271).例えば(12)のように,補助動詞「-(어)주다」構成を通じて与格(=受恵者)の人称関係が現れる(목정수 2009).

(12) 구해 줘! (1人称目的語)

(목정수 2014: 271)

日本語においても類似の授受表現「〜してくれる,やる」などがあり,人称の観点からの捉え直しができるのではないかと考える.一方で,日本語は授受表現が韓国語よりも細分化しており,各表現の機能及び人称との関係が異なると推察される.

③代名詞人称

最後に,三次段階の人称として語彙形態の代名詞人称を取り上げる.代名詞人称は,名詞の次元で行為者人称を具体的に命名するものであるが,목정수(2014: 300-301)では【尊敬】の先語末語尾「-시-」も,それを通じて主語に上位者としての名詞があることがわかるため,代名詞人称に設定している.「-시-」は人称的に表現すれば,話者より上位者である人が主語位置にあるということを指すため,非1人称代名詞に次ぐと述べている.

---

7) 詳細は後述の代名詞人称を参照のこと.

(13)では話者より上位者である「그 분」が主語位置に来ており，それに呼応して動詞「성공하다」に【尊敬】の先語末語尾「-시-」が接続している．仮に主語が現れない場合でも，動詞に「-시-」が接続していることで，主語位置に想定される行為者は話者より上位者であることがわかり，非 1 人称性が表される．목정수(2014)は「-시-」を非 1 人称性主語尊待要素または非 1 人称上位者指示要素と称している．前述の通り，日本語の敬語でも敬語の〈人称変化／人称暗示〉機能（菊地 1994=1997）が指摘されており，人称という視点を通じて，日韓両言語の敬語を把握することができ，またその差異を明らかにすることができるのではないかと考えられる．

(13) 그 분이 성공하셨습니다.

（목정수 2014: 306）

また목정수(2014)は，名詞次元の人称代名詞についても人称の観点から整理している．例えば，1 人称代名詞で最も直接的で代表的な形態である「나」と，もともとは 3 人称代名詞で使われていたが話者自身を下げようとする意図で話者自身を 3 人称化して相手との距離を確保するのに使用されて謙遜の 1 人称となった「저」を比較し，語尾との関連を論じている（목정수 2014: 337-341）．(14a)では，語源的に 3 人称性を備え謙遜で用いられる 1 人称代名詞「저」と，直接的で 1 人称的である「-어」が人称で一致しないため非文法的と判断されるのに対して，(14b)では「저」と 3 人称性を備え尊待的，間接的な屈折人称語尾「-어요」が人称で一致するため，文法的となる．日本語も韓国語同様に 1 人称代名詞が尊称，謙称に分けられ，韓国語のこの人称論議は大いに参考になると思われる．一方で，日本語には代名詞だけでなく，美化語や改まり語という準敬語でも話者と聴者の関係を表すことができ，その数も韓国語より多い．こうした準敬語も人称という観点から考えることで，日本語の人称の特徴が明らかになると推察される．

(14) a. *저는 이름이 목정수라고 해.
　　 b. 저는 이름이 목정수라고 해요.

（목정수 2014: 341 を一部変更）

本節では人称研究を概観し，日本語では人称の総合的な考察が皆無であることを確認した．そして韓国語を対象にして人称の総合的な研究を行った목정수(2014)を取り上げ，その研究の一部を見てきた．日本語と韓国語は類似しており，韓国語の知見を日本語の研究にもそのまま適用できる部分は少なくなく，人称という視点は有効なものと考えられる．一方で，日韓両語は完全に同一なものではないため，人称という共通の視点を通じて両言語の違

い，特徴を把握することもできるのではないかと思われる．そこで次節では，韓国語研究を参考に，人称という視点から日本語の言語現象を考察する．

3．韓国語人称研究から見た日本語の人称

ここまでの人称論議の中でも触れてきた通り，人称を幅広く捉え言語現象を説明する研究があり，日本語にも人称との関連が示唆される言語現象が少なくない．本節では，日本語の敬語表現，モダリティ表現，授受表現に注目して，必要に応じて韓国語との対照も交えつつ，人称の観点から分析考察する．

3．1．敬語表現

まず敬語表現から見る．素材敬語（敬語運用，謙譲語），対者敬語，準敬語に分けて，それぞれの表現に見られる人称を考える．

①素材敬語（敬語運用）

목정수(2014)では韓国語の尊敬語は行為者（＝主語）の非1人称性を表すと述べられている．前述のように，菊地(1994=1997)でも敬語の〈人称変化／人称暗示〉機能が指摘されている．例えば，(15)は主語が表現されていないが，a，b それぞれの主語が「私は」，「あなたは」だと理解される（菊地1994=1997: 100）．つまり尊敬語は主語の2人称性，謙譲語は主語の1人称性があることが示唆される．

(15) a. 来週のパーティーには出席いたします（まいります）．
　　b. 出席なさいますね（いらっしゃいますね）。
（菊地 1994=1997: 100，(5)再掲）

一方で，菊地(1994=1997)は次のように文脈によっては主語が別のものに解釈される可能性も指摘している．

(16) 厳密にいえば，前半の主語はたとえば「家内は」で，後半の主語はたとえば「あなたの奥様は」かもしれない．が，一般的に，主語を言わずにすませる以上は，それが何であるかが互いに了解できるだけの状態が整っているのが普通であり，実際には，誤解の可能性はほとんどない．それまでたとえば「家内」「奥様」の話をしていたというようなよほど特定の文脈がなければ，<u>(15)</u>の主語はそれぞれ「私は」「あなたは」ととるのが普通である．
（菊地 1994=1997: 100，下線部分は筆者が変更）

「家内」「奥様[8)]」は3人称であり，上記で示唆された各表現が示す主語の人称を，尊敬語は非1人称性，謙譲語は非2人称性と置き換える方が言語事実に即する．しかし「家内」という主語は話し手の領域に属する，つまりウチ側のものであること，「奥様」という主語は聞き手の領域に属する，つまりソト側のものであることに注目する必要がある．菊地(1994=1997)ではさらに議論を進め，日本語の敬語を考える場合は，英語を始めとする欧米語の人称をそのままでは使いにくいことを示し，次のように＜敬語上のⅠ人称・Ⅱ人称・Ⅲ人称＞という＜敬語的人称＞を提示している．

(17) 敬語と人称

<table>
<tr><td>普通の意味での2人称</td><td></td><td rowspan="2">敬語上のⅡ人称（相手側の領域の人物）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">普通の意味での3人称</td><td>2人称並み（相手の身内）</td></tr>
<tr><td>純粋の3人称</td><td>敬語上のⅢ人称（どちらか一方の領域とはいえない人物）</td></tr>
<tr><td>1人称並み（話手の身内）</td><td rowspan="2">敬語上のⅠ人称（話手側の領域の人物）</td></tr>
<tr><td>普通の意味での1人称</td><td></td></tr>
</table>

（菊地 1994=1997: 119 を筆者が表化）

この＜敬語的人称＞という捉え方は，次のような日本語と韓国語の敬語運用の違いを説明することもできる．油谷(2005: 192)では，日本語では目上の人を話題にする場合，尊敬語を用いる反面，他人の前で自分の身内のことを話題にするのに尊敬語を用いない一方で，韓国語では目上は常に目上として遇しなければならず尊敬語を用いると述べている．例えば(18)のように，日本語では上司の部長を他社の人の前ではウチの人間として謙譲語で遇するのに対して，韓国語では上司の部長を変わらず尊敬語で遇している．こうした敬語運用の違いは相対敬語，絶対敬語として知られており，日本語は相対敬語，韓国語は絶対敬語と言われる．絶対敬語とは，話題の人物が話者より上位者であれば常に敬語を使うのに対して，相対敬語とは，話題の人物が聞き手または話者の身内か否かに（内外関係）によって敬語の使い方が変わってくるものである（沖森他編 2014: 86）．

(18) （取引先からの電話で、上司の部長に取り次ぐよう依頼されたが部長は留守）

a. 部長の須永は現在席を外しております。

---

8) 「奥様」は2人称の呼びかけ表現としても用いられるが，ここでは議論の便宜上，指称の役割に限定して論を進める．

b. 김 부장님은 지금 자리에 안 계십니다.

（作例）

また(19)のような所有者敬語についても，相対敬語，絶対敬語という敬語の運用と，同様に主語がどの領域に属するかという観点で説明ができると思われる．日本語は所有者敬語が多く用いられるが，その所有者の領域にある，つまり話し手の領域にないことから，尊敬語が用いられる．一方で韓国語の場合は，所有物は3人称的であり，2人称性の尊敬語と符合しない．そのため，日本語に比べると，所有者敬語の容認性が落ちると考えられる．

(19) a. （先生は／先生の／∅）お仕事は，もうお済みになりましたか。
b. (선생님은/?선생님의/∅) 일은 벌써 끝나셨습니까?
（菊地 1994=1997: 142 を改変し，筆者が韓国語訳を追加）

このように素材敬語の運用について考えると，日本語と韓国語の素材敬語で表される行為者人称には異なりがあることがわかる．**韓国語は欧米言語と同様に人称が絶対的である一方で，日本語はその行為者が話し手の領域に属するかどうかで，言語による遇し方も異なる相対的**なでものであると言える．日本語は素材敬語の運用を見ることで，話題の行為者が話し手の領域に属するかどうかがわかる．

②素材敬語（謙譲語）

日本語と韓国語の敬語の違いとして謙譲語の生産性，機能が挙げられる．日本語は「いたす」「差し上げる」などの補充法動詞に加えて「お／ご～する」，「お／ご～申し上げる」のような文法形式が多くの動詞につき生産的に謙譲表現が生み出されるが，現代韓国語では生産的な文法形式はなく，「드리다」「뵙다」のような一部の語彙形式が【謙譲】を表すに留まる[9]．人称の観点から言えば，**謙譲語は主語の 1 人称性を表すが，日本語の方がその方法が多様**であると言える．

また謙譲語の機能にも注目する必要がある．日韓対照を扱った先行研究では「動作に向かう相手に対する話し手の敬意の程度を表す待遇表現」（油谷 2005: 182），「動作の主体を低めることによって話題の客体（受け手）を高める表現」（沖森他編 2014）として話し手の敬意を表すものと捉えている．しかし李翊燮他(2004: 246)は、韓国の客体待遇法（≒謙譲語）を「対比の対象が，話者自身というより尊待対象をする行為なのである」と述べている．

---

9) 中世韓国語では【謙譲】を表す先語末語尾「-ᄉᆞᆸ-」が存在していたが，現代韓国語では【丁寧】を表す終結語尾「-습니다」の一部にその姿を残すのみである．

(20a)は韓国語の例であるが，両親は話し手の敬意の対象として扱われるというよりは，動物園に連れて来るという行為をした子供の敬意の対象として両親が扱われている．日本語に訳すと(20b)のようになるが，「ご両親をお連れした」と謙譲語を使って表現するのではなく「両親を連れて来た」と表現するのが一般的であると思われる．日韓謙譲語の機能が異なることが(20)の例からも窺い知れる．

(20) a. 이 동물원에는 노부모님을 모시고/데리고 온 사람들이 많구나.
b. この動物園にはご両親を?お連れして／連れて来た人が多いな。
（李翊燮他 2004: 245 を一部改変）

日本語は尊敬語，謙譲語ともに話し手からの敬意を表すため、(21)のような二方面敬語が可能である．(21a)では謙譲語のあとに尊敬語を付け加えてニュートラルよりも高めている（菊地 1994=1997: 265）．このとき，待遇の度合いは「先生＞先輩＞話者」である．しかしこの表現を韓国語訳した(21b)はかなり不自然なものである．日本語の場合は尊敬語，謙譲語共に話し手を基準としたものであるため，共起できるが，韓国語は尊敬語と謙譲語でその基準が異なるため，共起に制約があると考えられる．**日本語は謙譲語と尊敬語を組み合わせて用いることによって主語（＝行為者）や話し手，文中の登場人物との関係を多様に表すことができ，謙譲語の機能が韓国語よりも大きく，担っている行為者人称情報が大きい**と言える．

(21) a. あなた（田中先輩）が先生をご案内してくださったのですか。
b. ?선배님께서 선생님을 안내해 드려 주셨어요?
（菊地 1994=1997: 265，筆者が韓国語訳を追加）

また日本語の謙譲語はその機能によって次の 2 種類に分かれるという考え方もある（菊地 1994=1997）[10]．さらに近年は謙譲語 B について，「《I 人称を低める》という典型的な使い方を外れて，ただ《聞手への丁重さをあらわす》というだけの使い方が行われる場合がある」と菊地(1994=1997: 273)は指摘している．そのため，謙譲語 B は丁重語と呼ばれることもある．例えば(23)では行為者が「選手」であるが，話し手の領域に属するとは考えづらく，行為者人称として 1 人称性を持つとは言えない．ここでは聞き手である視聴者、聴取者に対して丁寧に話しているだけあり，목정수(2014)が言

10) 井上編(2017)では，謙譲語 B（当該研究では謙譲語 II と称している）は謙譲語の用法拡散に過ぎないと述べている．この拡散した用法に注目するか，もとの用法に注目するかによって敬語の分類は異なるが，謙譲語の機能が増えていることに注目している点では共通する．

う話聴者人称の 3 人称性に該当すると言える．**日本語の謙譲語は行為者人称としての機能が韓国語よりも多様なだけでなく，話聴者人称としての機能も担い，行為者人称と話聴者人称の境界があいまい**になっていると考えられる．

(22) 謙譲語の 2 つのタイプ
・謙譲語 A…話手が補語を高め，主語を低める（補語よりも低く位置づける）
・謙譲語 B…話手が主語を低める（ニュートラルよりも《下》に待遇する）
（菊地 1994=1997）

(23) （スポーツの放送で）
この大会には全国から三百人の選手が参加いたします。
（菊地 1994=1997: 273）

③対者敬語
次に対者敬語の人称について考える．油谷(2005: 183)は日本語の対者敬語（前掲書では対者待遇法と称する）が「通常『最敬体，敬体，ぞんざい体の三段階に区分されるが，体系性にやや欠けるところがある」と述べている．菊地(1994=1997: 258)でも名詞の後に続く語形によって(24)のように整理し，大きく三つ，細かくは五つの文体があることを指摘している．一方，韓国語の対者敬語は非常に体系的であり，①해라体，②해体，③하게体，④하오体，⑤해요体，⑥합쇼体の六段階に分けて一般的に考えられる．

(24) 日本語対者敬語の文体

常体	だ	である
敬体	です	であります
特別敬体	でございます	

（菊地 1994=1997: 258 を筆者が表化）

対者敬語は，話し手から聞き手への敬意を表すものであり，목정수(2014)の話聴者人称を表す．목정수(2014)でも韓国語対者敬語の一部が扱われ，「-어요」は話聴者間の距離が置かれるため 3 人称性を備え，「-어」は直接的であり質問回答の場合は話者の立場を表すため 1 人称的，「-는다」は間接的な対象であり 3 人称的であるとした．韓国語における六段階の対者敬語がそれぞれ異なる人称性を担っていると考えられる．近年，③하게体，④하오体が使われなくなりつつあるものの，それでも四段階がある．**日本語の場合は，上記のように段階としては三段階の対者敬語体系であり，韓国語と比較すると対者敬語が担う話聴者人称情報は少ない**ことが推察される．謙譲語

では韓国語より日本語の方が，行為者人称情報が多く含まれることが示唆されたのとは対照的である．敬語に限れば，**日本語は行為者人称情報が多く，韓国語は話聴者人称情報が多い**と言えるかもしれない．

④準敬語

最後に準敬語について考える．菊地(1994=1997: 356)では美化語や改まり語を次のように整理し，敬語の性質を持って使われることから準敬語と呼んでいる．

(25) 日本語の準敬語

・美化語…話手が（同じ内容を）きれいに／上品に述べる

・改まり語…話手が（同じ内容を）改まって述べる

菊地(1994=1997: 356)

美化語に焦点を当てると，菊地(1994=1997: 373-376)は接続や意味によって(26)のように整理している．

(26) 日本語の美化語

	例
「お／ご」が付いて一つの語になっていて，「お／ご」を取り払うと事実上成り立たないもの	おかず，ご飯
「お／ご」の付かない形も語としては成り立つが，「お／ご」の付いた形はこれとは多少とも違った意味で使われるもの	おかわり，おしゃれ
「お／ご」の付かない形も，同じ意味の主語として成り立つもの	お祝い，ご祝儀

（菊地 1994=1997: 373-376 を表化）

美化語は同じ内容をきれいに／上品に述べる表現であり，名詞が多い．人称と直接対応しないように思われるが，その美化語が表す行為や物をきれいに／上品に述べることで，その行為や物が属する領域，つまり行為の主体や物の所有者への敬意を述べることができると考えられる．そうした点では，목정수(2014)の言う代名詞人称に準ずる．(27)は実際の見出し文であるが，「乗り換え」ではやや不自然なように感じられる．東京メトロ線を利用する客が行為の主体であることを念頭に置き「お乗り換え」という美化語を用いて，客を遇しており，非１人称性を備えていると考えられる．美化語を通して，その行為の主体や物の所有者の情報を得ることができ，美化語も人称性を有していると言える．

(27) 東京メトロ線でのお乗り換えがさらに便利になります！

（東京メトロ NEWS RELEASE 2020 年 5 月 14 日）[11]

日韓対照を扱った油谷(2005)では，美化語を「話し手が教養があり，上品な人間であることを示す言語使用」と述べている（油谷 2005: 182）．韓国語の具体例として「식사」,「시장하다」を挙げている．韓国語では主に漢字語が美化語の機能を果たすが（油谷 2005: 197），日本語が接辞による文法形態的なものであり生産的であるのに対して，韓国語は一部の語彙による語彙的なものであり生産的でない．**美化語は名詞に多く現れるが，日本語は，韓国語と比べると，その美化語に人称情報を多く担わせている**可能性が示唆される．

次に改まり語について考える．改まり語は，話し手が（同じ内容を）改まって述べる表現であり，用言よりは体言に多い．「今日」に対する「本日」,「さっき」に対する「先ほど」などが挙げられる（菊地 1994=1997: 377）．この改まり語は改まって述べる表現であり，(28)のように対者敬語と共起するのが自然である．日本語の丁寧語が 3 人称性の話聴者人称を表すと言えるように，改まり語も代名詞人称として 3 人称性を有すると考えられる．

(28) 本日は会議を開催します／?開催する。

（作例）

管見の限り，改まり語を中心に扱った日韓対照研究はない．韓国語で改まり語に該当するものとして，「말」に対応する「건」などがあり，美化語同様に漢字語がその機能を果たすと考えられる．一方で「さっき」,「先ほど」というペアは共に「아까」と訳されることが多く，日本語ほどは，改まり語は多くないと思われる．ゆえに**改まり語という主に名詞表現が担う人称情報も韓国語より日本語が多い**と言える．

ここまで美化語，改まり語という準敬語について考えてきた．美化語，改まり語は名詞表現が多いが，敬語同様に人称情報を備え，代名詞人称に準ずるものと考えられる．日本語の方が韓国語よりも美化語，改まり語が多いということから，**日本語は韓国語より代名詞人称という名詞次元の人称が相対的に多く，名詞が担う人称情報が相対的に多い**と言える[12]．

3．1 節では日本語の敬語表現について，韓国語との対照も交えて，人称

---

11)https://www.tokyometro.jp/news/images_h/5dd3751942166712a7d85b7fa75bf25f_1.pdf：2021 年 10 月 16 日閲覧）

12) 金恩愛(2003)は日本語の名詞志向構造，韓国語の動詞志向構造を指摘したが，そうした表現構造の違いが，人称の表し方に反映されている可能性もある．

の観点から考察した．その結果，明らかになったことをまとめると，次の(29)のようになる．목정수(2014)の韓国語人称研究を通じて，日本語人称の特徴が浮き彫りになったが，これが敬語表現以外にも当てはまるかどうかを３．２節以降で検討していく．

(29) 敬語表現から見る日本語と韓国語の人称

	人称全般	行為者人称	話聴者人称	両者境界	表現品詞
日本語	相対的	より多い	より少ない	不明瞭	名詞もある
韓国語	絶対的	より少ない	より多い	明瞭	動詞が主
具体例	敬語運用	謙譲語	対者敬語	謙譲語	準敬語

３．２．モダリティ表現

次に日本語のモダリティ表現について人称の観点から考える．モダリティとは「その文の内容に対する話し方の判断，発話状況やほかの文との関係，聞き手に対する伝え方といった述べ方を担う」ものであり，「モダリティレベルの要素が文の外側に現れる傾向がある」ため（日本語記述文法研究会編2003: 1)，日本語では助動詞や終助詞がモダリティを表すことが多い．そこで３．２節では助動詞，終助詞に分けて日本語モダリティの人称を考察する．

①助動詞

仁田(1994)はモダリティと人称の関係を論じているが，助動詞はモダリティの意味機能を有するものが多く，そうした助動詞の人称制限が取り上げられている．仁田(1994: 30)によると，〈表出〉を表す意志・希望の文は，それらが〈表出〉の発話・伝達のモダリティで使われている限り，主体を表す名詞句の人称が１人称に限られるという．(30)，(31)が例として挙げられているが，목정수(2014)の人称研究から解釈すると，意志を表す助動詞「ウ」や希望を表す助動詞「タイ」は，行為者人称において１人称性を備えると言える．

(30) ｛僕／*君／*彼｝は今年こそは頑張ろう．
(31) ｛私／*あなた／*お父さん｝は酒が飲みたい．

（仁田 1994: 30）

また推量の助動詞「ダロウ」も〈発話・伝達のモダリティ〉までが存在する〈文〉では，２人称ガ格が現れがたい，といった人称制限の現象が発現する一方で，〈発話・伝達のモダリティ〉を持たない〈接続節〉の中では，人称制限の現象が発現しない（仁田 1994: 82，下記(32)）．これらを人称の観

点から解釈すれば次のように考えられる.「ダロウ」は話聴者人称としては1人称性を備え，行為者主語の行為に対する話者の推量を表すが，聴者の行為は話者よりも聴者が詳しいのが一般的であるため,聴者の行為を推量し聴者へ発話・伝達するのは不自然となる. つまり行為者人称には人称制限があり，非2人称性を示す.**「ダロウ」は話聴者人称，行為者人称の両機能を備え，前述の謙譲語同様に，両者の境界があいまい**になっている. 一方で，聴者への発話・伝達行為ではない場合は，話者の推量に過ぎず行為者人称の制限が生じない.

(32) a. *君は学校へ行くだろう.
　　b. 君は学校へ行くだろうが，僕は行かない.

（仁田 1994: 81）

ここでは日本語の助動詞について見てきた. 仁田(1994)の例から「ウ」,「タイ」,「ダロウ」を取り上げ, その人称制限を分析した結果, 목정수(2014)の人称概念で説明できることが明らかになった. さらに「ダロウ」はその位置，機能によって人称制限が異なることが指摘されるが，話聴者人称，行為者人称という捉え方を導入することで両者の機能を備えていると解釈できる. これは日本語の謙譲語にも見られるものであり，日本語人称の特徴として挙げることができるかもしれない.

②終助詞

モダリティを表す日本語の文法要素としては,助動詞のほかに終助詞が挙げられ，大きな役割を担う. 終助詞によって，話し手がその状況をどのように認識し,聞き手にどのように伝えようとするのかという伝達のモダリティが表される（日本語記述文法研究会編 2003: 239）. 終助詞を扱った研究は数多く，神尾(1990, 2002)は情報のなわ張り理論，金水他(1998)は談話管理理論という枠組みから終助詞の説明を試みている. 滝浦(2008)はこうした諸研究を踏まえ, ポライトネスの観点から終助詞を(33)のように定義し,「カ」,「ヨ」,「ネ」の意味機能を分析している. 本稿のこれまでの議論で敬語表現，モダリティ表現を人称の観点から分析したが，人称とポライトネス，モダリティは深く関わるものである. そこでここでは滝浦(2008)の終助詞意味機能分析をもとに，その人称について考える.

(33) 終助詞とは, 発せられる情報の管理(management)について話し手がメタ的に言及するモダリティー形式である.

（滝浦 2008: 135）

滝浦(2008)では終助詞「カ／ヨ／ネ」の意味機能を次の(34)のようにまとめている．いずれの終助詞も話し手の構えを表すという点では，話聴者人称として1人称性を備えると言える．

(34) 終助詞「カ／ヨ／ネ」の意味機能

「カ」の意味素性	［－話し手］	話し手の判断留保・判断放棄
「ヨ」の意味素性	［＋話し手］	話し手の一方的言明
「ネ」の意味素性	［＋聞き手］	聞き手への共有の確認・促し

＋：当該の情報が話し手または聞き手の管理下に｛現にある／あるべきだ／あると見なす／etc.｝という話し手の構え
－：当該の情報が話し手または聞き手の管理下に｛現にない／あるべきでない／ないと見なす／etc.｝という話し手の構え

（滝浦 2008: 137-138 を筆者が表化）

「カ」は，しばしば疑問の助詞と呼ばれたりするが，それは［－話し手］に他の要素が合わさった結果である（滝浦 2008: 141）．滝浦(2008: 141)によると，(35a)にはたしかに聞き手に対する問いかけがあり，そこから聞き手の関与つまり［＋聞き手］の指定を加えたくなるかもしれないが，厳密にいえば，聞き手への反応要求を表すのは「カ」それ自体ではなく上昇調イントネーション「↑」であり、その証拠に，聞き手の反応を求めない反語的な表現ならば，(35b)のように，下降調イントネーション「↓」が現れるという．これを人称の観点から解釈すると，「カ」は話聴者人称として1人称性を備え，上昇調イントネーション「↑」が2人称性を備えると言えるだろう．

(35) a. 「何か買ってこようか↑」
　　 b. 「そんなこと，誰がするか↓」

（滝浦 2008: 141）

続いて終助詞「ヨ」を見る．「ヨ」について，滝浦(2008: 142)は，(36a)のように話し手が一方的に言い放つだけで，聞き手の関与を期待していないと述べている．また(36b)のように，「ヨ」には相手の注意を喚起するような用法もあるが，聞き手に訴えかけているように感じられるとしても，それは，聞き手が気づいていないことが明らかな状況下で，話し手には情報を「一方的に言明」するしか術がないからであるとも述べられている（滝浦 2008: 142-143）．「ヨ」の意味機能を人称の観点から捉え直すと，話聴者人称とし

て1人称性を備えていると言える[13].

(36) a. 「はい，はい，わかりました．もういいですよ」
　　b. 「あ，ハンカチ落ちましたよ」

（滝浦 2008: 142-143）

最後に終助詞「ネ」について考える．滝浦(2008: 144)によると，話し手は「ネ」によって，その情報が自分の管理下にあるかどうかについては言及せず，ただ相手の管理下に置かれている・置かれるべきということへの言及だけをするという．(37a)では話し手は伝達内容について十分な信念を持っているが，自分の判断がどうであるかについては触れず，ただ相手の管理下にある情報もそうなっていることの確認だけを求める（滝浦 2008: 144）．さらに聞き手がその情報を実際に知っていることを意味するわけではない点にも注意が必要であり（滝浦 2008: 144），(37b)がその典型として挙げられる．この終助詞「ネ」の人称を考えると，話聴者人称として2人称性を備えていると言える．

(37) a. 「本当においしそうにビールを飲みますね」
　　b. 「ちょっと郵便局に行ってくるね」

（滝浦 2008: 144）

なお小田(2007=2020)は古代日本語文法の概説書であるが，現代語についての言及も見られ，神尾(1990)の情報のなわ張り理論を紹介し，文末不可要素（終助詞）のうち，情報伝達のありかたを表す情報系として現代語の「ネ」を挙げ，現代語で「ネ」の有無は，情報構造上，義務的であると述べている（小田 2007=2020: 201）．(38)において相手の情報を表す際は「ネ」が義務的に現れ，話し手の情報を表す際は「ネ」が現れない．(38a)で命題部分に注目すると，相手の情報を表すため，主語は相手の領域に属するものである可能性が高い．素材敬語を分析した際と同様に，**日本語では人称が相対的**であることがわかる．さらに「ネ」によって話聴者人称の2人称性だけでな

---

13) なお韓国語で【直接観察】を表す先語末語尾「-더-」は日本語に訳出される際，下記のように終助詞「ヨ」を伴って現れることが多い．これは「-더-」，「ヨ」が共に話聴者人称として1人称性を備えるためであり，さらに【直接観察】したことは「判断放棄・判断留保」することは少なく「一方的に言明」することが多いためであると解釈できる．翻訳における人称の役割についても今後考えていかなければならない．金智賢(2006)でも「-더-」文と「たよ」文が語用論的に同じような機能を果たすことが示されている．

・비가 오더라．「雨が降っていたよ」

（作例）

く，行為者人称の2人称性が表され，謙譲語分析と同様に，**話聴者人称と行為者人称が融合**していることが示唆される．

(38) a. あなたの誕生日は四月一日です｛*ø／ね｝.
　　b. 私の誕生日は四月一日です｛ø／*ね｝.

（小田 2007=2020: 201）

3．2節では日本語の終助詞「カ／ヨ／ネ」を取り上げ，その人称について考察した．その結果，人称から終助詞を捉えることができたばかりではなく，人称が相対的であること，話聴者人称と行為者人称が融合していることという日本語の人称の特徴が終助詞にも現れることが確認された．

3．3．授受表現

最後に授受表現を対象に，日本語の人称について考察する．

久野(1978)は授与動詞「ヤル」，「クレル」に注目し，(39)のような論理的内容が同じ文の違いは，話し手の視点にあると仮定し，(40)のように授与動詞の視点制約をまとめた[14]．

(39) a. 太郎ガ花子ニオ金ヲクレタ．
　　b. 太郎ガ花子ニオ金ヲヤッタ．

（久野 1978: 141）

　　c. 타로가 하나코에게 돈을 주었다.

（上記を筆者が韓国語に翻訳）

(40) 授与動詞の視点制約

「クレル」は話し手の視点が，主語（与える人）よりも与格目的語（受け取る人）寄りの時にのみ用いられる．「ヤル」は，話し手の視点が，主語寄りか，中立の時にのみ用いられる．

クレル　E（与格目的語）＞ E（主語）
ヤル　　E（主語）≧ E（与格目的語）

（久野 1978: 141-142）

(39)の韓国語訳を考えると，「クレル」，「ヤル」共に「주다」で表され，日本語のように視点による使い分けは成されないことがわかる．久野(1978)が提唱する視点制約も，人称の枠組で捉えることができ，主語が話し手の領域にいて相対的に1人称性を備えるときは「ヤル」が用いられ，主語よりも与

14) 術語については引用元の研究に従う．

格目的語の方が話し手の領域にあるときは相対的に非1人称性を備え，「クレル」が用いられる[15]．韓国語ではいずれも「주다」となり，主語の人称性は明示されず，日本語授与表現の方が，行為者人称が多様である．敬語運用，終助詞から確認された**日本語人称の相対性**，そして謙譲表現から確認された**日本語における行為者人称の多さ**というのが，授与動詞の日韓対照からも見えてくる．

そして久野(1978)では「クレル」，「ヤル」が補助動詞として用いられる場合にも論を進め，(41)のように共感度関係が成り立つと考えている．(42a)は「非主語「花子」寄りの視点からの記述とも解釈できるし，文外の要素「私」寄りの記述とも考えられるし，又，その両者であるとも考えられる」という（久野 1978: 153）．一方，作例の(42b)は主語「太郎」寄りの視点からの記述，文外の要素「私」寄りの記述，またはその両方と解釈できよう．これを人称の観点から捉え直した場合，補助動詞「クレル」は非主語が話し手であるが，または話し手が非主語寄りの視点から記述しようとし，主語が話し手の領域にいないと考えられ，非1人称性を備えると言える．対照的に，補助動詞「ヤル」は主語が話し手であるか，あるいは話し手が主語寄りであり，主語が話し手の領域にいることを示しており，1人称性を備える．**授与動詞の補助動詞用法においても，日本語は人称性が表されるがその人称は相対的なもの**であることがわかる[16]．なお(42)を韓国語に翻訳した場合は，いずれも授与動詞「주다」を補助動詞的に用いて表現されるが，同形態で訳され形態上の区別はない．独立動詞のときの同様に，**韓国語に比べて，日本語では授与動詞の補助動詞によって行為者人称をより細分して表現**できると言える．

(41) 補助動詞「クレル・ヤル」の視点制約
……テクレル　E（非主語）＞ E（主語）
……テヤル　　E（主語）＞ E（非主語）

（久野 1978: 152）

---

15) なお久野(1978)は授与動詞の分析から，発話当事者の視点のハイアラーキーを次のように一般化し，人称についても触れている．

・発話当事者の視点ハイアラーキー
話し手は，常に自分の視点をとらなければならず，自分より他人寄りの視点をとることができない．
1＝E（1人称）＞ E（2・3人称）

（久野 1978: 146）

16) 補助動詞の「クレル・ヤル」の視点制約は，独立動詞としての「クレル・ヤル」のそれと極めて類似しているが，「テヤル」が中立的な視点（E（主語）＝E（非主語））では用いられないという点で相違している（久野 1978: 153）．

(42) a. 太郎ハ花子ノ勉強ヲ手伝ッテクレタ.

（久野 1978: 153）

b. 太郎ハ花子ノ勉強ヲ手伝ッテヤッタ.

c. 타로는 하나코의 공부를 도와주었다.

（作例）

また日本語では授与動詞「モラウ」を補助動詞として使用できるが，韓国語では該当する動詞「받다」を補助動詞として用いることは一般的ではない（＝(43)）．久野(1978)の分析概念を借りれば，「モラウ」は「ヤル」同様に，非主語よりは主語への共感度が高いと言える．人称としては 1 人称性の行為者人称を表す．「クレル」，「ヤル」の分析結果と合わせれば次のように言うことができる．まず，**授与動詞「クレル」，「ヤル」，「モラウ」が備える人称は，主語が話し手からの共感度が高いか，つまり話し手の領域に属するかによって変わる相対的なもの**である．そしてそうした**日本語の授与動詞が示す行為者人称は韓国語よりも多様であり細分化**されている．

(43) a. 太郎ハ花子ニ勉強ヲ手伝ッテモラッタ.

b. ??타로는 하나코에게 공부를 도와 받았다.

（作例）

３．３節では日本語の授与動詞を韓国語のそれと対照し，その人称性を考えた．日本語の授与動詞も人称から捉えることが可能であることが示されたばかりではなく，韓国語と比較して日本語の人称が相対的なものであること，韓国語に比べて日本語は授与動詞によって表される行為者人称が多く細分化されていることが改めて確認された．

３．４．まとめ

本節では목정수(2014)の人称論議をもとに人称を広く捉え，日本語の敬語表現，モダリティ表現，授受表現に見られる人称を考えてきた．日本語の敬語表現を韓国語と対照しつつ分析考察することで，日本語の人称の特徴を明らかにした．そしてモダリティ表現、授受表現へと分析対象を広げ，その特徴を検討し，ほかの言語現象を説明するうえでも有効であることがわかった．本節での議論をまとめると次の(44)のようになる．

この結果を踏まえると，日本語と韓国語の人称の特徴を次のようにまとめられると思われる．まず日本語の人称は相対的なものであり，名詞が主に表すモノに注目し，そのモノが話し手の領域に属するかどうかという行為者人称が細分化され多様に伝えられる一方で，行為者人称と話聴者人称の境界が不明瞭である．見方によって変わる流動的なものであり，話し手のモノの捉

え方に注目することから，**日本語は記憶型人称**と総括できる．対照的に韓国語の人称は絶対的であり，動詞が主に表すコトに注目する．そしてそのコトを誰が誰にどう伝えるかという話聴者人称が細分化され多様に伝えられ，行為者人称と話聴者人称の境界も明瞭である．見方によって変わらない固定的なものであり，話聴者間でのコトの伝え方に注目することから，**韓国語は記録型人称**と表現できる．本節では목정수(2014)の韓国語人称研究を通じて日本語の人称について考え，日本語のさまざまな言語現象を人称の観点から統一的に説明できる可能性を示唆した．日韓両語の違いが生じる背景として，日本語は記憶型人称，韓国語は記録型人称という人称の特徴があることを示した[17]．

(44) 日本語と韓国語の人称の特徴

	人称全般	行為者人称	話聴者人称	両者境界	主担品詞（相対的）
日本語	相対的	より多い	より少ない	不明瞭	名詞（モノ）
韓国語	絶対的	より少ない	より多い	明瞭	動詞（コト）
具体例	敬語運用 **終助詞** **授受表現**	謙譲語 **授受表現**	対者敬語	謙譲語 **助動詞** **終助詞**	準敬語

4．省略，「不完全な文」と人称

日本語と韓国語は類似した言語構造を持つと言われるが，省略や「不完全な文」は韓国語よりも日本語で多いことが先行研究で指摘されている．これは日本語と韓国語の言語構造が同一ではなく，さまざまな異なりがあるためであり，多くの観点から日韓対照研究が成されている．本稿で明らかにした日本語の記憶型人称，韓国語の記録型人称という人称構造の違いは，先行研究で指摘される日韓の異同とどのような関係があるのだろうか．本節では構文類型，認知類型，叙述類型の3つに注目して，省略，「不完全な文」と人称の繋がりを考え，人称による統一的な説明を模索する．

①構文類型：「磁石」な日本語と「チェーン」な韓国語

生越他(2018)は主に名詞述語構造に焦点を当て，日本語と韓国語の省略を

17) なお日本語の記憶型人称を理解するうえでの具体例を挙げる．日本語の記憶型人称は，MLB ロサンゼルス・エンゼルスに所属する大谷翔平選手の 2021 年の活躍に例えられる．大谷選手は投手・野手の二刀流を志し日本プロ野球で実績を残した上で MLB に移籍した．当初は世界最高峰のリーグでの二刀流実践に懐疑的な見方が強かったが，2021 年は投手，野手の両方で大活躍した．投手，野手それぞれでタイトルをとることはできず，「誰がどのタイトルを獲得した」という狭義の記録には残らないものの，時に投手，時に野手としてさまざまな立場で活躍した大谷翔平という人はファンの記憶に大いに残ったと言えよう．日本語の記憶型人称の働きはまさに大谷翔平選手のそれと同様である．

分析した結果，日本語は言語単位の独立性及び結合性が高い「磁石」的な構造を，韓国語は言語単位の融合性が高い「チェーン」的な構造という構文類型を備えることを明らかにしている．二項名詞文のうち，2 つの名詞（句）が論理的な関係を持たないウナギ文を例にとると，(45)のように日韓の違いが現れる．日本語では「君」，「可愛い目」という 2 つの名詞（句）を助詞「は」，コピュラ「だ」を用いて自由に結合できるが，韓国語では「너」，「예쁜 눈」は助詞「-는」，コピュラ「-이다」を用いても，2 つの名詞（句）に論理的な関係がないと文として成立しない[18]．

(45) a. 君は可愛い目だなあ．
　　b. *너는 예쁜 눈이구나．

（生越他 2018: 241）

これを人称の観点から捉え直すと次のように解釈できるのではないかと思われる．記憶型人称の日本語では人称が相対的であり，かつ名詞が担う人称情報が多いため，2 つの名詞（句）が論理的関係にない場合でも，2 つの名詞（句）の背後にある関係を相対的に解釈し，2 つの名詞（句）を結び付けるウナギ文が生成されるのではないだろうか．記録型人称の韓国語では人称が絶対的であり，名詞が担う人称情報が少ないため，そうした解釈及び生成プロセスは起こらず，日本語で文法的であったウナギ文が韓国語では非文法的になるケースが生じる．

さらに Arai(2021, 2022)は，名詞述語構造を中心とした省略現象以外の言語現象についても分析し，これまでの日韓対照研究で指摘されてきた日韓両語の違いを，「磁石」な日本語と「チェーン」な韓国語という言語構造の違いで統一的に説明できる可能性を示唆している．「非述語文」（金珍娥 2013），「中途終了発話文」（髙木 2018）という「不完全な文」は日本語の方が韓国語より多く現れることがそれぞれの先行研究で指摘されている．(46)は「非述語文」の例であり，日韓両語に現れるがその生起頻度は日本語の方が高い．「磁石」な日本語は述語以外の言語単位を独立させて使用することができる一方で，「チェーン」な韓国語は述語と述語以外の言語単位の融合性が高く，述語を省略することができないと言えよう．述語が現れない「不完全な文」は述語以外の名詞（句）が担う情報が必然的に多くなければならない．日本語のように，人称情報が流動的で名詞（句）が担う情報が多い場合は「不完全な文」の生成が可能であるが，韓国語のように人称情報が固定的で名詞（句）が担う情報が少ない場合はそれが難しいと考えられる．このように日本語と

18) 日韓コピュラ文の異同については金智賢(2021)に詳しい．

韓国語の構文類型には両言語の人称の違いが関わることが推察される[19].

(46) a. 中学受験？
b. 아직 이십대?

（金珍娥 2013: 170）

②認知類型：三項関係談話構築態度の日本語とそうでない韓国語

沖(2019)も生越他(2018)同様に日韓の省略を分析しているが，構文類型ではなく談話構築態度という認知類型に注目して日韓の違いを明らかにしている．談話構築態度とは，「話し手と聞き手の関係性の立て方とものの見方のことで，母語話者が無意識のうちに共有している談話産出時の構え」であり「社会文化とも関係しつつ，談話単位における内容と表現のくみたてを左右するものの見方（基盤）となるもの」である（沖 2019: 84）．(47)のように日本語では名詞止一語文で表現するのが自然であるのに対して，韓国語ではそうではないことについて，沖(2019)は対照談話論の視点から分析考察し，(48)のように述べている．

(47) （話し手が部屋に入ってきて，コーヒーを飲んでいる相手に対して）
a. コーヒー？
b. #커피? / 커피야? / 커피 마셔? / 커피 맛있어 보인다. / 커피 맛있겠다.

（沖 2019: 89 を筆者が要約）

(48) 日本語談話では，話し手と聞き手が場面を意識し，お互いに相手が対象をみている見方をも視野に入れている（三項関係）．それによって話し手が省略の多い主観的構文を使用しても，相手の対象に対する見方を使用しても，相手の対象に対する見方をなぞっている聞き手は，容易に相手の意味や意図を理解することができると考えられる．それに対して，韓国語談話では，聞き手は，対象をみる話し手の見方に添う態度は薄いため，名詞のみを示しても，聞き手は話し手の意味や意図を巧みに復元することは困難である．そこで話し手の感情・思想を描写する述語を添えて発話する必要があるのだと考えられる．韓国語談話で重要なのは，話し手が，聞き手を見て相手を巻き込んだ談話展開をすることであり，場面意識は相対的に弱く，かつ，三項関係にはない．そのため，話し手側のものである思想・感情を伝えるには述語

---

19) なお金慶珠(2008)では日本語話者の談話構成においては「表層構造上の主語の一貫性」，韓国語話者の談話構成においては「行為者主語の一貫性」が見られるとしている．日本語は「表層構造上の主語」が談話上で一貫するため，述語が現れない「不完全な文」も多く生成されると考えられる．ここでも主語という名詞（句）が担う情報の多さが示唆される．

を言語化して伝えることが必要なのだと考えられるのである.

（沖 2019: 93 を筆者が要約）

三項関係の談話構築態度をとり場面意識が強い日本語では名詞止文という省略,「不完全な文」が使用されやすいのに対して，話し手が聞き手を見て場面意識は相対的に弱い韓国語では名詞止文が使用されにくい. 日本語において場面意識が名詞（句）の使用を促進するということは，名詞（句）が担う情報が多く, また相対的であると言える. これは日本語の記憶型人称が, 名詞（句）が担う人称情報が多く相対的なものであることと並行する. 日本語と韓国語の談話構築態度という認知類型においても, 日本語と韓国語の人称の違いが深く関わるものと推測される.

③叙述類型：アニメーション型叙述の日本語とスライド型叙述の韓国語

井上(2012)はさまざま文法現象を日韓対照し,「事態を時間の中でとらえる」という「動的叙述」が日本語では明確であるが，韓国語では希薄であることを指摘している. 日本語はアニメーション型叙述であり, 韓国語はスライド型叙述であるという事態の叙述形式の相違が日韓両語の相違と関係していると述べている. 一例として, (49)のように日本語で「動作名詞(VN)＋ダ」を動詞的に使えることも, 動的叙述性の強さと密接な関係があるという. この「VN ダ」は「VN スル」の省略,「不完全な文」形式とも捉えることができ，日本語では使用されるが韓国語では許容されない. 日本語では動作名詞が持つ潜在的な動詞性が「VN ダ」に引き継がれ「VN ダ」が動詞的な性質を帯びる一方で，韓国語の「VN 이다」はあくまでも名詞述語であり，動詞的な性質を帯びることはない（井上 2012: 673-674).

(49)　(列車のアナウンスで)

a. まもなく立川に到着です.

b. *곧 다치카와에 도착입니다.

（井上 2012: 671）

動作名詞という名詞が担う機能が韓国語より日本語に多いというのは人称における名詞の働きと共通する. また動作名詞が示す人称情報は行為者人称であることからも, 動作性名詞によって行為者人称が韓国語よりも日本語でより多く表されるとも言える. これも日韓の人称の違いに通じており，日韓両語における叙述類型の異なりと人称の異なりには相関関係があることが示唆される.

4 節では，省略,「不完全な文」を扱った先行研究で指摘された日韓の構

文類型，認知類型，叙述類型の異なりを，日韓の人称の違いから探った．いずれの日韓差も，記憶型人称の日本語と記録型人称の韓国語という人称類型との繋がりがあることが示唆され，人称類型が省略，「不完全な文」の生成に関わることが考えられる．人称によって，日韓両語の違いを統一的に説明できる可能性がある．

5．おわりに

本稿では，文法カテゴリーの中で人称に焦点を当て，日本語の人称について一考察した．日本語の人称については人称代名詞に注目が集まることが多く，他の文法現象との関係については部分的にしか触れられてこなかった．しかし日本語と類似した韓国語を対象に人称を分析考察した목정수(2014)に倣い，人称を広く捉え，韓国語との対照も交えつつ日本語の人称について考えてきた．敬語表現，モダリティ表現，授受表現を分析した結果，목정수(2014)の人称観点から日本語と韓国語を共通して説明できる部分がある一方で，そうではない両言語の違いがあることが明らかになった．そうした違いについて分析を進め，日本語は記憶型人称，韓国語は記録型人称という人称の違いがあることを示唆した．さらにそうした人称の違いが，省略や「不完全な文」の日韓差にも関わっていることを指摘した．人称というものが日本語においても非常に重要な文法カテゴリーであることが推察される．

しかし本稿では数多くの課題も残っている．本稿では목정수(2014)の韓国語人称研究を大きく参照しているが，韓国語研究において목정수(2014)の見解が一般化しているわけではなく多くの批評がある．今後更なる検討が必要になるだろう．また日本語の文法現象，日本語と韓国語の省略，「不完全な文」についても先行研究に原則的に従っており，個々の現象の分析考察，人称観点からの分析にも不十分な側面がある．こうした数ある課題を克服していくことで，日本語の人称研究が発展していくことが期待される．

《付記》

本研究はJSPS科研費（16H03413，21H05522）の成果の一部である．また本稿に有益なコメントをくださった査読者の先生に，この場を借りてお礼申し上げる．もちろん，コメントを十分に反映できなかった部分を含めて，本稿における全ての誤りは筆者に帰するものである．

《参考文献》

李翊燮他（梅田博之監修・前田真彦訳）(2004)『韓国語概説』大修館書店

井上史雄編(2017)『敬語は変わる：大規模調査からわかる百年の動き』大修館書店

井上優(2012)「事態の叙述様式と文法現象：日本語から見た韓国語」野間編所収

ヴロダルチック・アンドレ(1997)「日本語の敬語と西洋語の人称」『言語』26(6)
沖裕子(2019)「対照談話論から見た日韓の省略」『信州大学人文科学論集』7
沖森卓也他編(2014)『韓国語と日本語』朝倉書店
生越直樹編(2011)『東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とことば—進化認知科学的展開」研究報告書　日本語と朝鮮語の対照研究』東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とことば—進化認知科学的展開」
生越直樹他(2018)「省略現象から見えること:「磁石」な日本語,「チェーン」な韓国語」,『社会言語科学』21(2)
小田勝(2007=2020)『古代日本語文法』筑摩書房
神尾昭雄(1990)『情報のなわ張り理論—言語の機能的分析』大修館書店
神尾昭雄(2002)『続・情報のなわ張り理論』大修館書店
亀井孝他編(1996)『言語学大辞典　第 6 巻　述語編』三省堂
菊地康人(1994=1997)『敬語』講談社学術文庫
金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(verbal-oriented structure)」『朝鮮学報』188
金慶珠(2008)『場面描写と視点：日韓両語の談話構成とその習得』東海大学出版会
金珍娥(2013)『談話論と文法論：日本語と韓国語を照らす』くろしお出版
金智賢(2006)「韓国語の「-더 deo-」文における対照研究—日本語の「たよ」文との比較を中心に—」生越直樹編所収
金智賢(2021)『コピュラとコピュラ文の日韓対照研究』ひつじ書房
金水敏他(1998)「談話管理理論に基づく「よ」「ね」「よね」の研究」堂下他編所収
久野暲(1978)『談話の文法』大修館書店
斎藤純男他編(2015)『明解言語学辞典』三省堂
髙木丈也(2019)『日本語と朝鮮語の談話における文末形式と機能の関係：中途終了発話文の出現を中心に』三元社
滝浦真人(2008)『ポライトネス入門』研究社
堂下修司他編(1998)『音声による人間と機械の対話』オーム社
仁田義雄(1991)『日本語の人称とモダリティ』ひつじ書房
野田尚史(1991)『はじめての人の日本語文法』くろしお出版
野間秀樹編(2012)『韓国語教育論講座　第 2 巻』くろしお出版
日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法 4　第 8 部　モダリティ』くろしお出版
山崎久之(1963)『国語待遇表現体系の研究：近世編』武蔵野書院
山田孝雄(1924)『敬語法の研究』宝文館
油谷幸利(2005)『日韓対照言語学入門』白帝社
목정수(2009)『한국어, 문법 그리고 사유』태학사（목정수(2014)より再引用）
목정수(2014)『한국어, 그 인칭의 비밀』태학사
Siewierska, A. (2004) *Person*. Cambridge: Cambridge University Press.
Arai, Y. (2021) "Magnet'-type Japanese and 'Chain'-type Korean(1): A New Perspective

of a Contrastive Study between Japanese and Korean'『文京学院大学外国語学部紀要』20

Arai, Y. (2022) "Magnet'-type Japanese and 'Chain'-type Korean(2): A Preliminary Study on Linguistic Typology'『文京学院大学外国語学部紀要』21

한국어 인칭 연구에서 바라보는 일본어
—생략, '불완전한 문장'의 대조 연구를 시야로 넣고—

아라이 야스히로
분쿄가쿠인대학

본고에서는 문법 범주 중에서 인칭에 초점을 맞추어, 일본어 인칭을 고찰하였다. 일본어 인칭에 대해서는 주로 인칭 대명사에 주목하는 경향이 있어, 기타 문법 현상과의 관계는 부분적으로만 다루어져 왔다. 하지만 본고에서는 한국어를 대상으로 분석 및 고찰한 목정수(2014)를 바탕으로 해서, 기존의 일본어 인칭 연구와 다르게 인칭을 넓게 파악하여 한국어와 비슷한 일본어를 고찰하고 한국어와도 대조하였다. 경어 표현, 양태 표현, 수수[授受]표현을 분석한 결과, 목정수(2014)의 인칭 관점에서 일본어와 한국어를 공통적으로 설명할 수 있는 부분이 있는 반면에 그렇지 않은 양 언어 차이가 있음이 밝혀졌다. 이러한 차이를 분석하여, 일본어는 '기억형 인칭', 한국어는 '기록형 인칭'이라는 인칭의 차이가 있음을 시사하였다. 더욱이 이러한 인칭 차이가 생략이나 '불완전한 문장'의 한일 언어 차이에도 관계됨을 지적하였다. 인칭이란 일본어에 있어서도 매우 중요한 문법 범주임이 추찰된다.